

Viti Levu島高地, Nadrau村の社会組織

著者	須藤 健一
ページ	14-17
発行年	1982-03-30
URL	http://hdl.handle.net/10502/5159

民族班・民族グループ報告 4

Viti Levu 島高地, Nadrau 村の社会組織

須藤 健一

調査地 Nadrau 村は, Viti Levu 島の Sigatoka 川の上流にあり, Victoria 山の南麓, 海拔1,000mに位置する山村である。行政上は, Nadroga/Navosa 県, Navosa 地区に属す。この村の人びとの祖先は, 約150年前に, 10km下流にあった旧村から移住してきたと伝えられている。現在, 20戸あまりの家屋(*vure*)に, 約110 人の人びとが住んでいる。オセアニアの島嶼部で, 海拔500m以上の山間地域に, 人びとが集落を形成して居住する例は, ニューギニア高地を除けば, Fiji 諸島以外にはない。海岸部や低地より, 住むための自然環境に恵まれない山地民としての Nadrau の人びとの生活は, 民族学や生態学の調査・研究において大きな関心もたれる。なお, 今回の調査では, Nadrau 村の滞在が1日で, 村人からの情報も1人に限られているので, 本報告は, 予報の域をでるものではない。

生 業

Nadrau 村の人びとの主要栽培作物は, タロイモ(*dalo*: *Colocasia esculenta*, *via kana*: *Cyrtosperma chamissonis*), ヤムイモ(*uvi*: *Dioscorea alata*), バナナ(*vudi*: *Musa balbisiana*), タピオカ(*tapioca*: *Manihot esculenta*), 葉を食用にするハイビスカス(*vauvauni viti*: *Hibiscus manihot*)である。年間気温が低いこともあって, 海岸地域や低地で栽培されているサトウキビ, サツマイモ(*kumara*: *Ipomoea batatas*), ココヤシ(*niu*: *Cocos nucifera*), パンノキ(*uto*: *Artocarpus altilis*)は, ほとんどつくられていない。タピオカ, カバ(*yagona*: *Piper methysticum*), 新しくとり入れた野菜類は, おもに, 集落の周囲の傾斜面を開墾した耕地で栽培される。しかし, それらのほかの作物は, 集落から離れた森林地域での焼畑耕作によっている。焼畑は, 毎年, 500m²くらいの規模の二次林を切り開いてつくられる。そこは, 何区画にも分けられ, タロイモ, ヤムイモ, バナナ, タピオカ, マメ類が植えつけられる。1~2年利用すると, そのあと少なくとも15

年は、休閑地にされる。

1972年に、Tavuaの町への道路の開通後、イモ類、タピオカ、カバが商品作物としての価値をもつようになった。現在、タロイモは、4～5個で5ドル、タピオカは、20kgで10ドル、カバの根は、植えてから5年たった根5束で、20ドルの価格で市場へ出せる。村の男は、それらを売ることで、毎月、25ドルの現金を得ている。

伝統的には、焼畑による農耕は、男性の仕事とされ、パンダナスのマット(*ibe*)やカジノキ(*masi*: *Broussonetia papyrifera*)の内皮を叩きのぼした樹皮布(*masi*)をつくるのは、女性の仕事とされてきた。しかし、ここ10年前から樹皮布づくりもなされなくなり、女性も農耕に従事するようになり、男女間での明確な形での分業がおこなわれなくなった。20年前から畜牛の飼育が始められたが、それ以前は、ブタとニワトリが、主要な家畜であった。そのほかに、山での野豚の狩猟や川でのウナギを中心とする漁撈もなされていた。

社会組織 — *mataqali*, *yavusa* —

Nadrau 社会では、土地を所有し、経済的、宗教的に、*corporate group* を形成する社会集団の単位は、*mataqali*とよばれる、地縁化した出自集団である。これは、基本的に、1人の男性祖先を共有し、父系的に系譜関係をたどれる人びとよりなる親族集団である。*mataqali*は、以上の性格から、*patrilineage*とみなすことができよう。現在、この村には、Narokomai, Nakorolakalaka, Nakoro, Nadrogo, Nakoturaga, Wairevuの6つの*mataqali*がある(図1参照)。それらは、移住してきた時期の古さや系譜深度などによって、ランクづけられており、Narokomaiが、最上位にある。

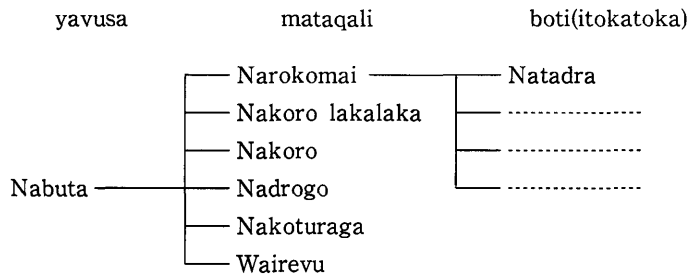


図1 Nadrau村の親族集団の構成

この*mataqali*は、また、世襲的な職業や職務を示す地位と関係している。たとえば、*turaga*(首長)、*matanivanua*(代弁者)、*bete*(司祭)、*bati*(戦士)、*mātaisau*(大工)などである。これらの職業的な名称をつけられている*mataqali*の成員は、必ずしも、それらの活動をするわけではない。これは、政治的に従属する*mataqali*が、村落社会において果しうる奉仕に基づいて、各集団間の政治的なつながりや関係をあらわす名称である。Nadrau社会においては、首長の職務はNarokomaiが、代弁者のそれは、Nadrogoが、それぞれうけもっている。

そして、Fijiの伝統的社会では、このような*mataqali*がいくつか結合して、上位の社会的単位となる*yavusa*を形成する。*yavusa*の語義は、「土地」の意味であるが、*yavusa*は、祖先が共通であるという想定のもとに連合した*mataqali*の集団である。対外的には、侵略に対する防衛や領土拡大の戦争などに1つの集団として機能する。1村落が複数の*yavusa*で構成される村もあるが、Nadrau村の場合は、6つの*mataqali*が結びついて、Nabutaという1つの*yavusa*を形成している。

家族 — *boti*(*tokotoko*), *vuvale* —

*mataqali*は、*boti*とよばれるいくつかの父系大家族よりなる。*boti*は、*boti ni lovo*に由来し、*lovo*(「石蒸し料理用の地炉」)の*boti*(「端」とか「一方の側」)という意味である。つまり、「炉を分けた人び

と」をあらわす。botiは、基本的な生産活動や村の労働の単位である。村の成員の成人入社式、他村からの首長や役人の歓迎、重要な建物の建築などのさいに、儀礼や祭宴をもよおす集団である。これは、2～3世代間の父系血縁者で構成され、祖先をまつる祭壇のある小さな儀礼小屋をもち、そこでカバ(yaqona)の儀礼がなされる。botiの成員は、共同で焼畑を切り開いたり、作物をつくる。土地は、mataqaliの首長によって、botiごとに分割され、保有される。

Nadrau 社会での botiの構造を、Narokomai 集団の首長、ROKO RATU NATADRA氏(73才)の家族を例に述べることにする。NATADRA氏は、1人兄弟で、3人の息子と1つの botiを形成している。3人の息子は、それぞれ結婚し、父親の家の側に、家を建てて住んでいる(図2参照)。Nadrau 社会では、祖父の名前を孫が継承する習慣があり、NATADRA氏は、祖父から ROKO RATUを、彼の長男 BOLANIWAGA氏は、RATU LEMEKIを、それぞれうけついでいる。居住は、夫婦とその未婚の子女を核として、1軒の家単位でなされる。この最小の居住単位、すなわち、世帯は、Fiji 語で vū-valeとよばれる。このように、炉を共有し、日常の生産活動や特定の儀礼のさいに祭宴をおこなう基本的な生活集団の単位である botiは、NATADRA 氏の場合、4つの世帯(vūvale)で構成されている。

botiは、土地資源に対する労働力の過剰ないし、戦争や病気などによる人口流出などの要因で、伝統的には分節化が進んだ。Narokomai lineageの場合、現在4つの botiに分かれている。もっとも新しい分節は、NATADRA 氏の祖父の代になされている。この mataqali内の botiの分立は、世代の経過とともに自律的におこなわれるのではなく、前述した、土地資源と人口規模の不均衡という事態が生じたときにおこる。土着的な botiの分裂が、こみいった歴史を経てきたために、現在では、行政上の末端単位として itokatoka という名称が、適用されている。この itokatoka という行政上の用語は、その指示する集団の単位が、必ずしも土着的な自律集団である botiと符合しないために、Fiji 社会を把握するうえで複雑な様相を示している。

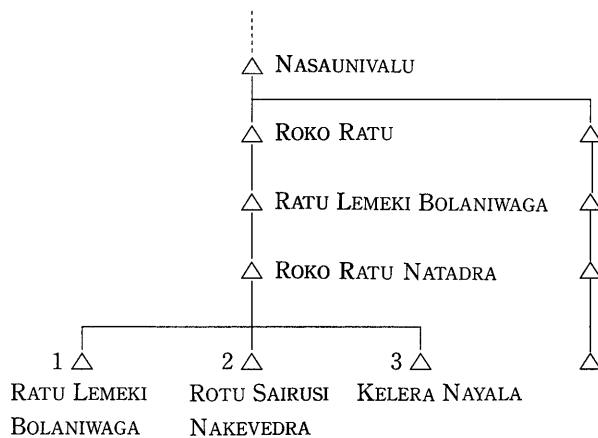


図2 NATADRA 氏の系譜関係

お す び

Fiji の村落社会は、土地を所有する corporate group としての父系出自集団(mataqali)を中心に構成されている。Viti Levu 島の Nadrau 社会の場合は、mataqaliの構成原理が、父系の系譜関係に基づいているが、東部の Lau 諸島では、集団への帰属が、父系の出自に限らず選系的な側面もみられる。それは、島という自然条件のもとで、集団間の人口維持力の不均衡という要因によるもので、mataqali 成員のなかに、非父系血縁者をくみ込んで集団を形成させることが不可欠だからである。そのために、mataqali は、FIRTH の定義が適用され、ramage と概念規定されている(SAHLINS 1962: 240, WALTER 1978: 356-359)。Fiji 社会の村落社会とりわけ親族集団の研究においては、集団を成立させている自然環境、たとえば、火山島

とサンゴ礁島，低地と高地といった生態学的要因を考慮にいれて，比較考察を加える必要がある。

参 考 文 献

- CALVERT, J. 1858(1858) *Fiji and Fijians*. Vol. 1. London : Alexander Heylin.
- CAPELL, A. 1973(1941) *A New Fijian Dictionary*. Suva : Government Press of Fiji.
- FIRTH, R. 1957 A Note on Descent Groups in Polynesia. *Man* 57: 4-8.
- PARHAM, J.W. 1973 *Plants of The Fiji Islands*. Suva : The Government Printer.
- SAHLINS, M. D. 1962 *Moala : Culture and Nature on a Fijian Island*. Ann Arbor.
- WALTER, M. A. H. B. 1978 Analysis of Fijian Traditional Social Organization : The confusion of Local and Descent Grouping. *Ethnology* 17 : 351-366.